

青森県建設業協会
東北建設業協会
東日本建設業協会

中学生向け現場学習会開く

建設業の魅力大いにPR

西目屋中学生が測量体験など

東北建設業青年会(会長・今俊順青森県建設業協会青年部会長)と国土交通省東北地方整備局が主催する「体験型現場学習会」が18日、西目屋村川原平の津軽ダム工事現場で開かれた。少子化の加速や若者の建設業離れが進む中、建設業に興味を持ってもらい、将来の入職促進につなげようと東北管内で初めて開催したもので、西目屋村立西目屋中学校の生徒や教員

など合計24人がコンクリートプレート作りや測量体験を通じて建設業の魅力に触れた。(3面にフォトスケッチ)
今回の体験型現場学習会は、大学生や高校生向けにこれまで実施してきた人材確保活動を更に一歩踏み出す形で、より若い世代の中学生を対象に、建設業に興味や関心を持ってもらい、将来の職業選択時の参考にしてもらおうと開催したも

の。
東北初開催となった今回の学習会には、夏休み期間中にも関わらず西目屋中学校の全校生徒および教員が参加。作業開始に先立ちあいさつに立った国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所の遠藤俊彦調査設計課長は、「学習会を通じて建設業には是非興味を抱いてほしい」と開催趣旨を強調した。また、今会



自ら練り込んだコンクリートを均す生徒ら

長は東日本大震災発生直後に地元建設業が真っ先に道路啓開作業に当たったことなどを紹介しながら、「地域を知り尽くしているのが地元建設業であ

り、地域に貢献する尊い仕事です」と地域建設業の使命を分かりやすく説明した。
コンクリートプレート作りでは、2人1組になつてコンクリートの練り込みを行った後、スコップを使って縦横20センチ、深さ5センチの型枠にコンクリートを流し込み、突き固め、コテを使った上面均しなど、一連の作業を体験。生徒らは慣れない手つきながらも無事にコンクリートを型枠に流し込むと、コテを使って丁寧に均し作業を行っていた。

行った後、光波測距儀を用いて正確な距離を測定すると、生徒らは光波測距儀の測量精度の高さに感心していた。
作業終了後、生徒を代表し桑田葵さん(3年)が「貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます」とお礼を述べたほか、参加した生徒からは「コンクリートが完成する過程や、固まる仕組みが分かって勉強になった」「将来、職業を決めるときの参考になった」などの感想が出されていた。
体験型現場学習会は今後、東北各県でも実施される予定。